

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所なんくるみいたあち			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 13日		～	2025年 3月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2025年 2月 13日		～	2025年 3月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	205年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	楽しみながら取り組める独自の活動プログラム	・独自のプログラム「療育演劇」を通して、運動、言葉、表現、コミュニケーション力、協調性など、総合的な力を身に着ける事のできる療育を提供している。 ・専門スタッフによる運動教室では、児童一人ひとりの発達段階や特性に合わせた指導を行い、楽しみながら体力や協調性を育てている。 ・算数教室では、検定合格という目標に向かって、主体的に取り組む、学習への意欲を高めている。 ・その他、読解力教室、ネイチャーゲームなど様々な療育プログラムを取り入れ、各活動の様子については、おたよりやSNSを活用して保護者へ情報提供をしている。	・引き続き、活動プログラムを職員で深めていきながら、児童が成長し、楽しめるプログラムを組み立てていく。 ・活動プログラム終了後、児童や職員とプログラムの振り返りを行い、今後の成長に繋げていく。 ・引き続き、児童や保護者、関係者と共有し情報発信しながら、施設と家庭が連携して児童1人ひとりの発達に合わせた支援に繋げる。
2	・お迎えは保護者が行い、事業所での子どもの様子を直接見ることができる。	・職員や子ども達の困りごとや気になることをテーマに、意見を出し合い、共同で解決策を見つけるプロセスを経験している。夕方のお迎え前に設定している。 ・お友達の良い所を見つけ、誉める・認めることで、自己肯定感を育てることを目的とした「eduキッズアワード」を毎月開催している。友達同士で「よかったこと」を投票し、投票数の1番多い児童には、表彰状とご褒美を授与している。家庭へ表彰状を持ち帰り、保護者と共有している。	・年齢や発達段階、特性に応じた役割を設定し、司会や書記、タイムキーパーなど、児童自らが主体的に関わる機会を増やしている。さらに、一体感や自己効力感、自己肯定感に繋げる。 ・引き続き児童や保護者、関係者と情報共有しながら、施設と家族が連携して、一人ひとりの発達に合わせた支援に繋げる。
3	・活動プログラムが豊富	・手作りの昼食、おやつを提供している。 ・温かみのある食事を通して、食への関心を持つ機会を提供するとともに、栄養バランスにも配慮している。 ・施設の畑では、野菜や果物などを育て、食事への関心に繋げるよう工夫している。	食育活動の充実として、児童が畑で育てた野菜を使った調理体験や簡単なおやつ作りを取り入れている。食への興味を高め、職員、児童ともに学びを深めていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・毎月、保護者会等を開催しているが、リアル開催の保護者の交流の実施が少なかった。	・毎月開催している親の会「まんじん」の開催や事業所内のイベントを通して、保護者が参加する機会を呼びかけた。様々な感染症を考慮して、ZOOMでの開催となり、保護者が交流する機会を多く設定することができなかった。	・参加しやすい曜日や時間、参加してみたい内容や開催方法について、保護者や職員から意見を聞きながら、定期的に開催できるよう努める。
2	・災害非常時の対策についての周知の不十分さ	災害や緊急時のマニュアルやBCP、訓練の開催について保護者へ周知しているものの、細かな内容や訓練の様子について、情報共有が十分に行われていない。	・避難訓練の実施状況を写真や動画で記録し、面談などで保護者に共有すると共に、SNSやおたよりの貼りだしなどで情報発信を行う。
3	児童が安全に過ごせる空間づくりの課題	施設や設備の老朽化や劣化に伴い、修繕が必要な箇所が増えてきた。 本棚の歪み、縁側床の張替え、壁に空いた穴、屋根の修繕など、職員が安全を考慮しながら修繕に取り組んだ。また、施設内ではポスター等で情報を視覚化し、分かりやすい環境を心がけている。	職員が安全を意識して、修繕作業や環境整備を積極的に行い、保護者やスタッフのフィードバックを受付ける。柔軟に改善を図れるよう、職場の声を反映した空間作りに取り組む。